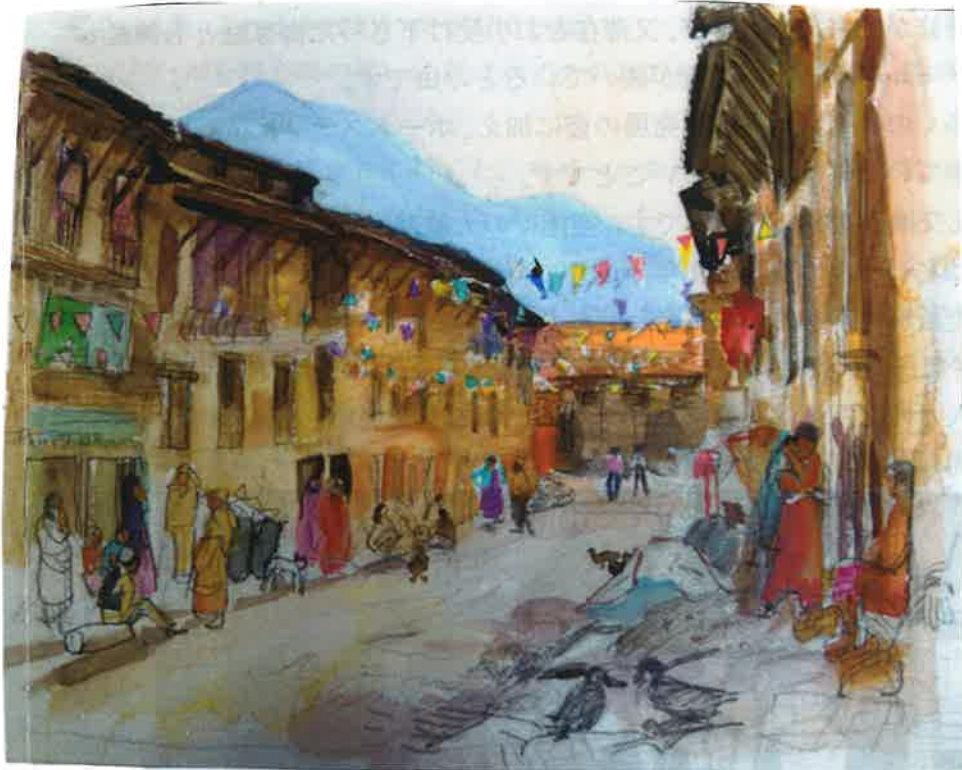


徳島ネパール友好協会・通信No.13

『素晴らしい』

コスト・ラム \square कस्तौ राम्री

2008年5月31日発行



ポカラ市街風景
石野泰之画伯作品
(旅行団メンバー)



ホームステイ訪問団
ネパールの子供達との記念写真

TOKUSHIMA NEPAL FRIENDSHIP ASSOCIATION

短期交換学生とネパールを訪ねて

ネパールの友達・子供達を訪ねる旅訪問団

団長 美馬 準一

過般、日ネ国交樹立50周年記念行事として、ネパール国から来日、友好関係の深い徳島県を訪ねられた交換学生計画が大成功裡に終了しました。

初渡航のネパールの学生等は、その全員が温かい感動を夫々のレポートに書いています。

大変有益な良い研修が出来たと大喜び、又滞在をお引受け下さった御家庭とも仲良しになり、帰国後もメールや手紙での交流が続いているとの由です。

国際交流により多くの見聞した異国の発展の姿に加え、ホームステイに依って対人間の美しい友情が生きている事は素晴らしいことです。

今回は、その答礼交換の意味での訪ネです。空港での大歓迎、公式的式典が終り、同行している学生等はネパールの親友に1年半ぶりで再会ができ喜んでいました。

滞在数日にして全員が両手を顔の前に合わせて『ナマステ』と言う挨拶も本格的なものでした。この小さな民間大使に声援を送りつつ、やはり国際間の人間交流は言葉の問題ではなく、人と人との相互理解を起点としたものである事を痛感した次第です。

今後、益々両国間の国際親善の絆はその強さを増してゆく事を信じています



観光公社表敬訪問記念写真

『2008ネパールの友達・子供達を訪ねる旅』訪問日程表（旅行団：12名）

	月日(3月)	交通機関	行事・行動
1	24日(月)	J A徳島駅前発	
2	25日(火)	関西空港発～ネパール・カトマンズ着	歓迎会・対面式、観光公社表敬訪問
3	26日(水)	カトマンズ～(国内便)～ポカラ	ポカラ市内観光 : ポカラ泊
4	27日(木)	ポカラ～(国内便)～カトマンズ	ヒマラヤ・アンnapル遠望、ホームステイ1日目
5	28日(金)	カトマンズ市内バス移動	カトマンズ観光、日本語学校・子供施設等訪問、ホームステイ2日
6	29日(土)	ネパール・カトマンズ～タイ・バンコク	お別れ朝食会
7	30日(日)	タイ・バンコク～関西空港～徳島	

ネパールに行って

喜来 萌奈子

3月24日～30日にかけて、ネパールへ行きました。初めての海外旅行ということもあり、きんちょうしました。関西空港からタイに行った時は、長時間飛行機に乗っていたのでつかれました。タイでは待ち時間が長かったです。

そして飛行機に乗ってネパールへ行きました。花のレイやチャイをくれました。こんなにかんげいされるとは思いませんでした。

ネパールを見た時の第一印象はバイクがとて多かったです。道がじゅうたいしていました。

そして、マッラホテルに行くと、ネパールの子供がいました。私は言葉が通じるのか不安でしたがすぐ仲良くなれました。

夜はかんげいパーティでした。歌やおどりをみんなひろうしてくれました。そして初めてネパールの料理は・・・からいです。こんなにからいとは予想外です。

次の日はポカラに行きました。ヒマラヤ山脈がよく見えました。ボートに乗ったり。お寺に行ったりしました。

四日目はいよいよホームスティ。スレンドラさんの家にホームスティしました。その家の子ともすぐ仲良くなりました。晩ごはんはモモを食べました。いっしょにつくりましたが、なかなか上手につつませませんでした。

5日目はカトマンズを観光しました。クマリの館に入ってクマリが見えて感激しました。学校、施設に訪問した時は子供たちがとてもかわいかったです。晩ごはんはヨマリというのを作りました。やっぱりつつむのがむづかしい……。けど、ネパールの食事が作れて食べれて」よかったです。

日本に帰るときは、さみしかったです。お別れパーティ、おみやげまで用意してくれて、うれしかったです。最後まで私たちによくしてくれました。

日本に帰ってからも、ネパールでとった写真を見て、現地の人、食べ物、たて物などをおもいだしています。また、機会があれば日本に来てもらったりしてほしいです。

ネパールに行って

5の3 喜来 たまき

わたしは天野さんや美馬さんのさそいで、ネパールに行きました。去年の6月ごろ行くかもしれないと聞いてすごくびっくりしました。その時4年生だったので4年で外国へ行くなんてと、思いました。でも、だんだん心配になっていました。

水が少ない国なのです。特にこまったのは食の習かんです。日本では辛いものはあまりありません。しかしネパールについてすぐ飲げい会があり、料理がおいていて食べに行くとても辛いです。おもわず泣きそうになるぐらい辛かったです。でも、よかったことは、町の人達、ホームスティの家の人、しせつの学校の人たちは、朝、起きたり会いに行くとてもよく手をあわせて『ナマステ』と、あいさつをしてくれました。うれしかったです。

2008 ネパールの友達・子供達を訪ねる旅

佐藤 朱美

私がネパールに到着して 最初に驚いたことは、自動車もバイクもみんな一緒に車道を通行している事です、その上 クラクションの音が大きく騒然とした印象をうけました、それから街に出かけましたが、正直 排気ガスとほこりには閉口しました。

しかし 歓迎会では 関係者のみなさんが 訪問を心待ちにしてくださっている様子が伝わり感激しました、私たちのためにピアノを用意くださり 国歌の演奏を無事行えることができました。

ただ、お料理は 半端でない辛さで泣き出すほどです、日本でホームステイしていたアグニムのお母さんが あまり辛くない料理を作ってきてくれたので助かりました、外国に来て親切にしてもらえることは おなじ事を日本でしてもらうより何倍も うれしく感じました。

翌日は観光につれて行ってもらい カトマンズから国内便でポカラに到着しましたがネパールに行く道のりが長かったためか 本当に近くに感じられました、ポカラのホテルにはプールがあり 水着をもってこなかった事を後悔しました、それから湖にボートに乗りにいきましたが 乗り降りがちょっと怖かったけど とても楽しい思い出になりました。

二日目 朝早くからエベレストを見に連れていってもらいました、自分の目で見る事が出来た感動は たぶん一生忘れることはないと思います、エベレストはとて大きくゴツゴツとして力強い印象でした。

ポカラからカトマンズに帰り その夜から私の家にホームステイしていた アンキタの家にお世話になりました、アンキタの家はとて大きく アンキタと一緒に 我が家に来ていたジュリナもホームステイしながら学校に通っていました。

ご両親はとてやさしい方で 大事にしてもらい スパイスをお土産に買ってもらいました、とておいしく 家でよく料理に使っています。

あと英語がしゃべれないのでコミュニケーションができず はがゆい思いをして 英語はとて必要と実感しました。

ネパールのストリートチルドレンの学校にいき見学させてもらいました、目がキラキラして勉強している様子は 自分も見習いたいと思います。

旧王宮や 街のあちらこちらにある古い寺院を見て歴史の古さを感じることができ 博物館ではいろいろな民族の歴史を学び エベレスト登山の歴史も知りました。

今回 親善使節団の一員として参加させていただき すばらしい経験ができ私にとって大きな財産となりました、お世話をしていただいた関係者のみなさまにとて感謝しています、ネパールと日本がいつまでも仲良くしてほしいと思いました。

ネパールへ行って

最初、美馬さんに誘われたときは正直あんまり乗り気ではありませんでした。でも両親に聞いたり、旅行の本などを見てだんだん興味が湧いてきました。着いた日にネパールのカトマンズへ行って最初に感じたことはすごくゴミゴミした所だなと思いました。

交通整備はされてないしゴミはたくさん落ちているし日本と真逆の世界と思いました。カトマンズのホテルは想像以上に綺麗でした。部屋はネパールの独特の装飾がしてあり日本とは違った感じでした。そして一番不安だったネパール料理は予想的中すごく辛くて苦戦しました。

2日目にネパールのポカラに行き、着いたときはネパールとは思えないほど綺麗でした。ポカラで日本料理店に行きました。そこでは幕の内弁当やカツ丼、親子丼ほかにもたくさんの日本料理があり、すごくおいしかったです。

ホテルは一般庶民が泊まっているのかというぐらい綺麗なホテルで部屋も綺麗で眺めもよく最高でした。

3日目はカトマンズに戻り親などがいない子供やストリートチルドレンの子供の学校に訪問しました。

行く前の感想は世の中にはご飯も満足に食べられない子がいるんだなというぐらいしか考えていませんでした。でも子供たちはすごく元気で日本の子供たちと変わらないぐらい明るく良い子ばかりでした。こんな子供たちが満足にご飯を食べられないと思うとすごく悲しかったです。自分はこのような子供たちにながができるのかなと考えさせられました。

メインのホームステイではすごい豪邸で、用意してくれた部屋はすごく広くて僕の家自分の部屋より良い部屋でした。

初対面にも関わらず家族のように接していただき料理もたくさん用意してくださり本当に良い思い出となりました。それにバイクの二人乗りをネパールで始めて体験するとは思いませんでした。

でも日本語が通じなくて身振り手振りで話したり、英語でなんとか話したりで苦労しました。このとき程、英語を必要だなと思ったことはありません。

これからももっと英語を勉強していきたいと思いました。

僕は今回、ネパールの人たちや文化に触れ、いろんな事を経験できてとても良かったと思いました。

今回ネパールで貴重な体験をさせて下さった会長の天野さん、美馬さんご夫妻をはじめ関係者の方々に心から感謝しています。

また美しいヒマラヤの風景を見たいと思います。

中村 翔

ナマステ!! ネパールからスレンドラです

2008年徳島ネパール友好協会を通して行われたホームステイに関する感想を書かせていただきます

私は日本滞在中何度も日本人のお宅にお世話になったことがありまして、ホームステイする度に色々と日本人の生活、文化、習慣等学べるチャンスがありました。本などで勉強したのと違って広く、詳しく身に付ける事が出来たと思えました。日本の文化、習慣、生活、歴史などに興味を持っている私にはとても役に立ちました。

今回はその恩返しと思い徳島から来られた三名様(Mariko Kirai 様, Monako Krai 様, Tamaki Kirai 様)にホームステイして頂きました。家にホームステイさせたのは今回初めてでしたから、どうすれば良いか、さっぱり分からなかったけど、お客さまに聞きながらお客様の希望通りにさせて頂きました。本当にこんな形で宜しいかなと思いながら二泊のホームステイが終わりましたが、私がした時と違ってお客様はただ家に帰って食事作って食べて、寝るだけの形になりました。昼間は別の活動で忙しかったです。ですからネパールの習慣、文化、生活のことはあまり身に付ける間が短かったと思えます。

もしも今度またこの様な活動がありましたら、少なくとも一日《朝から晩まで》はホストファミリーと過ごして欲しいと思えます。そうすると少なくともその家族の生活ぐらいは身に着けられると思えます。

では、これからもこの様な活動がありましたら是非とも世話をさせて頂きたいと思って

ネパールの旅

美馬 幾美賀

レンガ積み集落の路地

ひな鶏を踏みそうになり夫と歩みゆく

放し飼いの山羊居りひよこ、

あひるの子供と混じり遊べる

石で押さえしトタン屋根覆いて

桃の花今を盛りと咲き満ちて居り

ヒマラヤの峰はるかにて

段々畑は見渡すかぎり菜の花の咲く

見はるかすヒマラヤの山々は

茜色に染まりて牛は家路に向かう

牛の横切るをバスは静かに

待ちて居りカトマンズ郊外の夕映えの道

ホームステイ派遣団に随行して

真鍋一美

2006年11月にネパールから18人の子どもたちが徳島でホームステイをしました。その交流の一環で、徳島から4人の子どもたち(小4~高3)と7人の大人が参加しました。

旅行中は天候にも恵まれ、トラブルも無く、みんな元気で楽しい旅行でした。

両国の子供たち同士はすぐに打ち解け、会話や交流が盛り上がっていました。とくにネパールの子供も達は人懐っこく、こちらの都合で待ち時間が結構あったにもかかわらず、嫌な顔もせず、とても辛抱強い子ども達だと感心しました。日本の子ども達はガイドブックを片手に物怖じせず積極的でとても好感が持てました。このような子ども達が今後も友好を深め両国の架け橋になって、天野さんの思いを繋いでくれたらいいなと思いました。大人もネパールの受け入れ側の役員さんたちと協議や交歓をしました。ネパールの俳優さんに会えるなんて思ってもいませんでした。また、旅行中の美馬さんご夫妻のウイットに富んだ味のあるお話、毎日手作りの「和」のファッションの田中さん、2人のお子さんのお母さんとは思えない若さでよく気が付く喜来さん、いつもスケッチに余念のなかった画家西野先生達との4泊6日の旅は、今までに無い有意義な旅行でした。

お互いの友好親善も図れたし、日本の子どもにとっては開発途上国ネパールの現状を見聞出来るよ勉強になったと思います。とても意義のある事業だと実感しました。

2008年(平成20年)4月19日 土曜日 徳島 新聞 月刊



チベット人の優しさに感謝

(徳島市・真鍋憲昭・61歳・無職)

昨秋、ネパールからヒ 出るほどうれしかった。マラヤを越え、陸路チベ また、ポタラ宮殿の外ツトの首都ラサまでジー で五体投地をして礼拝しプで行った。四千以上の高 ている人々をじっと見詰原はすがすがしく、紺べ めていると、私にも拝みきの空は生まれて初めて 方を教えてくれた。私も見る美しさであった。ポ 五体投地を試みたが、タラ宮殿の荘厳さにも感 数回で息が苦しくなっ動した。だが、何よりも た。だが、周りのチベッうれしかったのはチベッ ト人は私を歓迎し、祝福トの人々の優しい心であ してくれた。

最近、チベットの暴動

途中でエベレストに見 が報道されるたびに、そとれ、大事なカメラを置 れらの事を思い出す。私 き忘れてしまった。気付 が接したチベット人は親 いたときには既に三十キ 切で、思いやりがあり、も走っていた。運転手に 心優しい人ばかりであっ そのことを伝えると、す た。その人たちの人権がぐさま引き返してくれ ないがしろにされている た。十分ほど走ると、後続 様子を見ると、本当に悲 の車と出合った。その運 しくなってくる。一日も 転手が私のカメラを持っ 早くチベット人の思いや て来てくれていた。本当 願いが実現されることを にありがたかった。涙が 願ってやまない。

ネパール制憲選挙

毛派圧勝、第一党へ

政権「コイララ王朝」崩壊
半世紀

【ニューデリー14日共同】ネパールの和平プロセスと民主化の行方を占う新憲法制定のための制憲議会(定数六〇二)選挙は十四日、十年の武装闘争を終結させ選挙に初めて参加したネパール共産党毛沢東主義派が圧勝する勢いで、第一党はほぼ確実な情勢となった。暫定議会で最大政党だったコイララ首相率いるネパール会議派は第二党になる見通したが、コイララ氏の後継者ともうわさされた娘のスジャータ・コイララ無任所相ら近親者が相次いで落選。首相の父の時代から半世紀

余り民主化運動を率いた「コイララ王朝」は崩壊寸前だ。選挙管理委員会によると、同日午前段階の集計では小選挙区(二百四十議席)の開票が終了した計百九十九区のうち、毛派は半数以上の百七議席を獲得。会議派(三二)、統一共産党(二六)などを大きく引き離している。

さらに、暴力や違反で投票中止や一部再投票になった選挙区を除く、開票中の選挙区のうち少なくとも十一区でリードしている。一方、政党内投票する

ネパール制憲議会選

毛派政権の誕生が確定

【ニューデリー22日共同】ネパール新憲法制定のための制憲議会(定数六〇二)選挙は二十二日、開票作業がほぼ終了し、ネパール共産党毛沢東主義派が約二百二十議席を獲得、第一党として新政権を率いることが確定した。

毛派は単独過半数には届かず連立政権を目指す。毛派の圧勝に対し第二党のネパール会議派、第三党の統一共産党は協力を渋っている。政権運営では和平プロセスを進めた主要政党間の連携維持で難航も予想される。

半数の獲得は困難な情勢。毛派を軸に会議派などと連立政権を組むことになりそうだ。第三党に転落する見通しの統一共産党はネパール書記長が責任を取り辞任、政権を離脱する方針で、毛派主導の新政権成立までには曲折も予想される。

＊ INVITATION ＊

Mr. Bishnu Gopal Shrestha,
President of Nepal-Japan Coordination Council and
Nepal Tokushima Friendship Association
requests the pleasure of your company in
Welcome Reception Dinner
hosted in honour of
President Mr. C. Amano, Advisor Mr. Jun-ichi Mima
and Madam of Tokushima Nepal Friendship Association (Japan)
and all visiting dignitaries.

Date : 25 March, 2008
Time : 06:30 PM onwards
Venue: Soaltee Crown Plaza, Malshree Hall, Kathmandu
RSVP: 5552378 (For regrets only)

『2007・ネパールへの旅』写真展、大成功！

LEDの灯るバーチョーク村と水力発電所で生活が一変したブジュン村を訪ねた旅！
紺碧の空にそそり立つエベレスト等数々の名峰と山麓に咲く可憐な高山植物に抱かれて山旅！

2008年2月13日（水）～17日（日）の間、NHK徳島放送局視聴者プラザにおいて徳島ネパール友好協会と徳島山と友の会の協賛で『2007・ネパールへの旅』写真展を開催いたしました。

写真展は、5日間で約500名と多くの方々のご来場いただき、成功裡のうちに終了いたしました。会員のみなさん、ご協力ありがとうございました。

尚、当日会場に展示いたしましたパネル写真を販売していますので、希望される方は協会事務局まで連絡下さい。

徳島新聞

2008年(平成20年)2月22日 金曜日

修業証書

◎：日本 日程で県内の飲食店を回り、各店の協力で天ぷら料理を研究するためネパールから来賓したラジヤン・ダンゴールさん、豆腐料理など

◎：鳥一の立川邦英店主(64)の指導で3時間ほど任込み作業に汗を流した2人。飲み込みが早く、すぐに慣れて「とても楽しい。帰ったら何度も練習したい」と、流石に2人は、首都カトマンズ市内にある日本人向け食堂2店の店長。食えた。

徳島ネパール友好協会を通じて、15日に徳島入りした。1週間の

徳島ネパール友好協会を通じて、15日に徳島入りした。1週間の



修業証書

「おふくろの味」

店長 ビジエイ・マハラジャン殿

あなたはこのたび阿波徳島において天ぷら造りを習得され、その秘伝と習得されたことを証します
今後、日本の伝統の味、天ぷらと貴園において多くの人に提供されることを願っております

平成二〇年二月一八日

天ぷら遊勝・花三味 麻植 道

ネパールから日本料理の勉強に青年2人が訪問！

カトマンズ・タメルの日本料理店『ふる里』と『おふくろの味』のオーナーラジエッシュ・ダンゴール氏から、両店の店長を日本へ行かせて実際の日本料理の調理方法や味、そして調理場や店の雰囲気勉強させたいと考えているが力になってもらえないかと相談を受けました。二人とも日本語が話せ日本料理も作れますが、残念ながら二人とも日本に来たことはなく、本物の日本料理は知らないで、一度本物の日本料理に出会うことは日本料理店の店長として非常に良いことなので、理事会で検討した結果、受け入れることにしました。

研修生氏名、日程、徳島での研修内容は次のとおりです。

- 日本料理店『ふる里』店長 ラジヤン・ダンゴール氏
- 〃 『おふくろの味』店長 ビジエイ・マハラジャン氏
- 2008年2月15日（金～）～22日（金）の8日間 ⑨中央市場（魚、野菜）
- 研修内容 ①てんぷら：花三味（徳島市） ②鍋料理：前田氏宅（徳島市）
- ③うどん：中野うどん学校（香川：琴平） ④焼き鳥：鶏一（徳島市）
- ⑤お好み焼き：ジョイ（吉野川市） ⑥油あげ：南陽食品（石井町）
- ⑦みそ作り：奥谷氏宅（神山町） ⑧椎茸作り：角谷農園（徳島市）

ネパールの政情を
報道する徳島新聞

ネパール 連立政権の協議難航 君主制廃止へ制憲議会

【カトマンズ27日共】政情混乱が続いたネパールの和平と民主化達成に向け新憲法を制定する制憲議会(定数六〇)が二十七日、首都カトマンズの国際会議場で開幕した。審議は二十八日に始まり、立憲君主制を廃止し新たな国家体制として共和制を選択する見通しだが、連立政権の協議は難航している。

四月十日に実施された選挙で、武装闘争を放棄したネパール共産党毛沢東主義派が二百二十議席を獲得し第一党となった。しかし、単独過半数は得られず連立協議を続けてきたが、第二党のコイラ首相率いるネパール会議派などの政党が条件を突きつけ、まだ新政府は成立していない。

この日は選出された議員の宣誓を行った。残る任命制の二十六人については二十八日までの政党間の協議では結論が出なかった。

王宮からの退去を求められているギャネンドラ国王は君主制廃止後にどうするか態度を明らかにしていない。二十六日には君主制支持勢力による爆弾事件が会場前などで相次ぎ、治安当局は会場や王宮の周辺でのデモや集会を禁止するなど警戒を強めている。

毛派と会議派、第三党の統一共産党は二十七日、新政府で政治権力を限定した大統領を首相の上に置くことで合意した。

ネパール君主制廃止へ

大統領新設 政党対立で議会多難

【カトマンズ28日共】ネパールの和平と民主化達成に向け新憲法を制定する制憲議会が二十八日、新たな国家元首となる大統領の権限をめぐる政党間の対立で予定時刻から大幅に遅れた末、首都カトマンズの国際会議場で審議入りした。立憲君主制の廃止と連邦共和制への移行を決議し、大統領が新設される。約二百四十年にわたるシャー(グルカ)王朝の幕を引く歴史的決断。政情混乱と経済の疲弊にあえいだネパールは新生国家として再建を目指す。

ギャネンドラ国王(六〇)は退位、カトマンズの王宮から退去を求められる。二〇〇六年十一月の包括和平協定で武装闘争を放棄し、和平プロセスに参加したネパール共産党毛沢東主義派は今年四月の制憲議会選挙で圧勝し、第一党になった。

しかし、単独過半数には届かず、連立政権に向けた協議をコイラ首相率いる第一党のネパール会議派などと続けるが、毛派の権力集中に対する警戒感も強く、一カ月以上が経過しても新政府は成立していない。

毛派など三党は二十七日で合意した。しかし、会議派と第三党の統一共産党が二十八日になって大統領に政府軍最高指揮官の権限を付与するよう要求。一方、毛派は首相に付与すべきだと主張した。

主要政党は昨年十二月に共和制選択を決め、暫定憲法が修正されていた。

カトマンズでは、君主制支持勢力による爆発事件が相次いでいる。治安当局は、暴徒が王宮にだれ込む事態も視野に、王宮周辺などで警戒態勢を敷いた。

ネパール君主制廃止

連邦共和国へ移行

王朝、240年の歴史に幕

【カトマンズ29日共同＝田辺宏】ネパールの和平と民主化達成のため新憲法を制定する制憲議会は二十八日夜、初審議を行い、立憲君主制を廃止し連邦共和国に移行することを圧倒的多数で決議した。この決議で、暫定憲法の規定が法的効力を持ち、同国は共和国となった。新たな国家元首として大統領を新設する。



29日、ネパールの制憲議会で演説するコイラ首相
(ロイター＝共同)



ギャネンドラ国王

ヒマラヤのヒンズー教王国に約二四十年間存続したシャー(グルカ)王朝は民主化により倒れた。

《ネパール王室》1769年、シャー(グルカ)が国を統一、英との戦争などを経て1951年に王政復古。60年、マヘンドラ国王は憲法を停止し専制政治を敷いた。民主化運動が高まった90年、ヒレンドラ国王が、大規模デモなどを受けて06年4月に民政復帰、制を定めた新憲法を公布した。

た。ギャネンドラ国王(父)は廃位、一市民となり、王宮からの十五日以内の退去を求められた。王宮は博物館などに使われる。

コイラ首相は開演演説で「(民主化の)夢がかなった。国民の主権が(国王に)奪われることはない」と述べた。記者投票の結果は賛成五六〇、反対四。

直接統治にある。強権的手法は主要政党の強い反発を招き、ネパール共産党毛沢東主義派と連携した民主化デモに屈して民政が復活。国王は危機的状況を救うためだったと正当化した。その誤算の代償は大きかった。

【カトマンズ29日共同＝田辺宏】「われわれは新しい時代に入った」。ネパールに君臨してきた君主制を、真の民主化を



28日、ネパールの首都カトマンズで、「ネパール共和国」と書かれた国旗を振る男性ら
(ロイター＝共同)

市民「新しい時代に」

【カトマンズ29日共同】田辺宏「われわれは新しい時代に入った」。ネパールに君臨してきた君主制を、真の民主化を求め、国民の大多数は置

き去りにされ、約十年にわたる毛派の武装闘争で一万三千人以上が死亡。四月の制憲議会選挙で毛派が圧倒した。貧困層は農村部を中心に人口の四割を占め、貧富の格差は拡大。カトマンズでは石油危機が続く。政治的に勝利した毛派や主要政党は山積する難問の早期解決を迫られる。

が困窮した生活を改善したいと渴望した結果だ。だが楽観はできない。政治的に勝利した毛派や主要政党は山積する難問の早期解決を迫られる。

2008年(平成20年)5月30日 金曜日

聞 王宮周辺は警察の部隊が警戒する中、国王が王宮を退去するかもしれないとのうわさが広がり、約百人の市民が遠巻きの様子を見守った。

新 だが主要政党の協議で制憲議会の開会が遅れる中、会場前では同日午後、小規模な爆発が発生。君主制支持者のヒラが見つかっていた。「王制支持者が民主化を妨害しようとしている」と怒りの声が上がった。



ネパール親善訪問
交流スナップ写真



徳島ネパール友好協会
☎779-3211
徳島県名西郡石井町藍畑字西覚円718-5
TEL・FAX 088-674-4168 TEL 088-675-0835

○事務局よりのお願い 会費未納の方は、下記に振込んで下さい。

振込先

(銀行振替) 阿波銀行 石井支店 (普) 1009369 徳島ネパール友好協会
(郵便振込) 石井郵便局 01600-2-52742 徳島ネパール友好協会

徳島ネパール友好協会メールアドレス : tonfa@mxi.netwave.or.jp

吉住千亜紀さん開設ホームページ. アドレス
[星とネパール] http://www3.justnet.ne.jp/~volty/-private
[徳島ネパール友好協会] http://www3.justnet.ne.jp/~volty/TONFA/t-nepal